

こどもホスピス 普及に役立てて



社会公益賞を受賞した愛知こどもホスピスプロジェクトの畑中代表理事(左)。右は名古屋キワニスクラブの紀村会長。右は名古屋市内で

キワニスクラブ NPO に社会公益賞

社会奉仕団体「名古屋キワニスクラブ」は、こどもホスピスの開設を目指して「キワニスクラブ」は、こども

「愛知こどもホスピスプロジェクト」(名古屋市名東区)に社会公益賞と100万円を贈った。

こどもホスピスは、命に関わる病気や障害のある子どもが家族と過ごす施設。同NPOは2023年4月に創設し、こどもホスピスや小児緩和ケアの普及活動、人材育成に取り組んでいる。キワニスクラブの紀村英俊会長(64)は「こどもホスピスの活動を多くの人に知ってもらえるきっかけになれば」と選定理由を説明した。

名古屋市内のホテルで贈呈式があり、同NPOの畑中めぐみ代表理事(45)は「今回の受賞は、こどもホスピスの存在を社会に定着させる礎になると確信している」と話した。

このほかキワニス文庫として、中京病院小児科(同市南区)、名鉄病院小児科(同市西区)、個人の住宅内に開設した家庭文庫のどんぐり文庫(犬山市)に、書籍456冊(69万5千円相当)を贈った。

(後藤優)

社会公益賞と 図書 の贈呈式

キワニスクラブ

子どもに関わる奉仕活動を展開する「名古屋キワニスクラブ」は19日、社会貢献を続ける団体などを表彰する「社会公益賞」と、病院や児童養護施設などに本を贈る「キワニス文庫」の贈呈式を名古屋市内のホテルで開いた。



社会公益賞とキワニス文庫の贈呈を受けた団体代表ら(19日、名古屋市内)

社会公益賞には、重い病気や障害のある子どもと家族が参加できるイベントの開催や「こどもホスピス」の設立に取り組むNPO法人「愛知こどもホスピスプロジェクト」(名古屋市内名東区)が選ばれた。賞状と100万円の目録が畑中めぐみ代表理事に贈られた。

中京病院(同市南区)、名鉄病院(同市西区)の両小児科と、個人の住宅で本を貸し出す家庭文庫「どんぐり文庫」(犬山市)には、それぞれ約23万円相当の絵本などが贈られた。

贈呈式で、同クラブの紀村英俊会長は「子どもたちを取り巻く環境は複雑化しており、きめ細かく活動を充実させないといけない」とあいさつ。畑中代表理事は「受賞は、こどもホスピスの普及啓発の基礎となる」と喜んだ。

「社会公益賞」「キワニス文庫」贈呈式開く

名古屋キワニスクラブ

ロータリークラブライオンズクラブキワニスクラブ



あいさつする紀村会長

名古屋キワニスクラブ（会長＝紀村英俊・東邦ガス副社長執行役員）は、名古屋市中村区の名古屋マリオットアソシアホテルで、「第55回社会公益賞」と「第50回キワニス文庫」の贈呈式を行った。贈呈式には会員や受賞団体の代表ら約70人が出席した。

（中村光希）

両事業は毎年、青少年の健全な育成に取り組み同クラブの中核活動として行っている。会員からの推薦団体を審査し、贈呈先を決めた。社会公益賞は困難な状況にある児童・青少年を支援する団体を対象に活動資金を授与するもの。今回の受賞団体は命に関わる病気や障害のある子どもとその家族のための施設の運営をめぐり組み。「中京病院」（名古屋市中区）と「名鉄病院」（名古屋市中区）、「家庭文庫」（名古屋市中区）、「犬山」の3施設に絵本や児童

子どもホスピスプロジェクトに支援

病院など3施設に図書寄贈



目録を受け取る畑中代表（左）

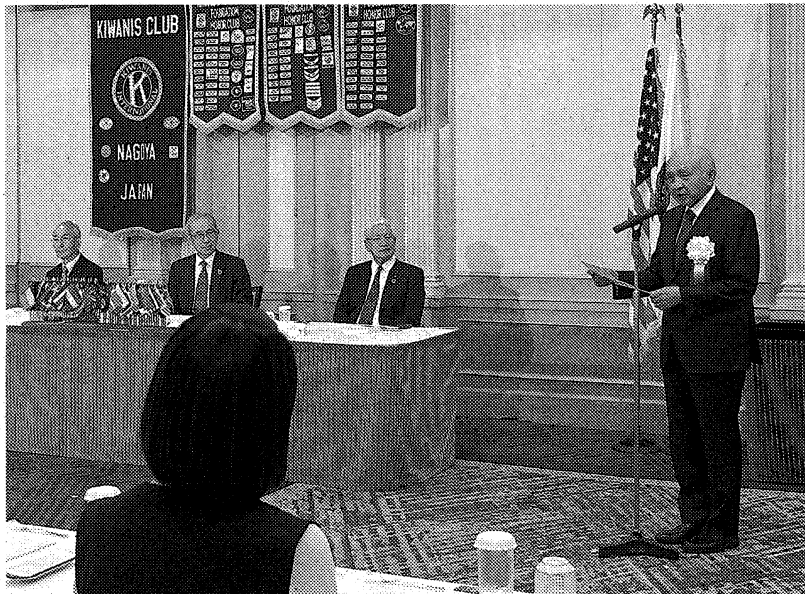
活動法人愛知子どもホスピスプロジェクト（名古屋市名東区）。100万円が贈られた。キワニス文庫は、小児科



絵本など総額約70万円相当の児童書を寄贈した

「子どもたちを取り巻く環境が複雑化する中で、従来にも増して、きめ細かく奉仕活動を充実していかなければならないと感じている」と話した。特定非営利活動法人愛知子どもホスピスプロジェクトの畑中めぐみ代表は「社会公益賞の受賞は、当法人の取り組みの普

及啓発につながり、この地に無かった子どもホスピスを設立するための礎となることを確信している。命と向き合う重い病気や障害のある子どもたちが存分に生きることができるよう社会の実現に向けて、今後も活動を進めていく」と述べた。中京病院の後藤百方院長は「感謝をもって、頂いた図書を子どもたちのために活用させていただく。当病院では、今後も、一人一人が心のかもった医療を提供し、技術を磨き上げ、皆さまの役に立てるように、一致団結して、尽力していきたい」と感謝を述べた。



受賞の喜びを語る後藤病院長（右）